

第7回 病院ふれあいフェスタ

地域の輪
～つなげよう みんなの笑顔～

たくさんのご来場ありがとうございました!



10月3日、第7回病院ふれあいフェスタを開催しました。来場者からは、「病院を身近に感じることができた。」「子どもが病院で働いてくれたら良いと思い、毎年子どもと来ている。」といった意見を頂きました。当日は、天候にも恵まれ、約2,000人の来場者で賑わいました。

クリスマスコンサート



12月11日、恒例のクリスマスコンサートを開催しました。当院ドクターグループによるクラシック演奏はプロ並みの腕前で、その音色に皆うっとり聞き惚れました。「BBB」は元気いっぱい。会場が一体となって楽しく歌って踊り、クリスマスモードを最高潮に盛り上げてくれました。

素敵な演奏をありがとうございました!

知って得する 病気の予防と治療のはなし

市民公開講座 (拡大版)

参加費無料
事前申込不要

日時：平成28年1月30日(土) 場所：藤枝市民会館

13:30 ~ 16:00 (13:00 開場)

挨拶 藤枝市立総合病院開設者 藤枝市長 北村 正平

基調講演 『地域医療構想における当院の在り方』 藤枝市病院事業管理者 毛利 博

健康講座 『あなたを守る最後の砦 -眠らせるのが麻酔ではありません-』 藤枝市立総合病院 麻酔科 副院長 白石 義人

『元気な腸のつくり方 -大腸がんの予防と治療-』 藤枝市立総合病院 外科 副院長 中村 利夫

藤枝市立総合病院だより

おもいやり

O-moi-yari



Fujieda Municipal General Hospital

年頭挨拶

本年が皆様にとって健やかで充実する年であることを心から祈念いたします。昨年は救急センターの影響で入院患者数が大幅に増え、さらに外来数も増えてきています。

今年も正念場の一年になるような予感がします。診療報酬のマイナス改定など、病院の経営面からみると大変な状況です。病院も生き残りをかけて努力していますが、まだまだ道半ばといったところです。これからも医師・看護師の充実を図り、皆さんから信頼される病院となるように努めていきたいと思っております。当院は、「がん診療」と「救急医療」に強い病院を目指しています。がん診療は地域がん診療連携拠点病院の強みを生かし、さらに充実できるよう邁進しています。また、救急センターには高度救命救急センターの経験豊富な医師がセンター長として4月に着任します。大いに期待しているところであり、皆さんも温かく迎えていただければと思います。



また、患者さんの医療に対する自己負担が今後増大する恐れがあります。これまでのような「低負担高医療」から「高負担高医療あるいは低負担低医療」が、少子高齢化、社会保障費の増大により現実味を帯びてきています。財源難という観点からも地域住民の皆さんの意識改革が必要で、「困ったことがあればまず病院へ」という考えは改めなければならないかもしれません。

これからも皆さんに愛される病院となるよう努力していきたいと考えています。

今号の特集

- P2 救急センターって どんどころ?
- P3
- P4 病院ふれあいフェスタ、クリスマスコンサートを開催しました
市民公開講座のお知らせ



救急センターってどんなところ？



1. 救急センターの紹介

平成 27 年 4 月、当院の救急センターは本格稼働しました。志太榛原地域では初のセンター内に入院機能が備えられている施設です。4 月から 10 月までの 7 か月の間に救急センターを受診された患者さんは延 10,034 人、1 日あたり平均 46.9 人となり、昨年度の 1 日あたりの平均受診者数を 2.7 人上回っています。

救急車で搬送された患者さんもこの期間に延 2,740 人、1 日あたりでは 12.8 人となり、昨年度より 1.2 人増えています。近隣の 4 消防本部に協力を得て調査した結果、他院の搬送患者が横ばい又は減少していることと比べ、当院への搬送のみが増えており、また静岡など他の地域への搬送が減っていることが分かりました。これも救急センターが整備された結果と考えています。

救急センター
受診・救急搬送患者 統計データ

平成 27 年度 4 月から 10 月			
	1 日平均	前年度増減	合計
受診	46.9 人	+ 2.7 人	10,034 人
救急搬送	12.8 人	+ 1.2 人	2,740 人

2. 知っておきたい救急治療のトリアージ

救急治療は、高齢化・高度化・多様性が増し、それに伴い 1 人の患者さんに係る診察時間も増す一方です。当院では来院された患者の変異を見逃すことがないように、院内トリアージを活用しています。「トリアージ」とは「選別」という意味のフランス語です。

トリアージでは、患者さんが訴えていること（主訴）に合わせて、血圧、脈拍、体温、呼吸数などを測定し、その結果により診療の決定をしています。重症度が高い方から優先的に診療をしていきますから、軽症と判断する患者さんは、待ち時間が長くなっています。

救急センターを受診される方は、どなたも体がつらくて来院されるわけですから、待ち時間が短いこと・少ないことを希望するのは最もだと思いますが、限られた医療資源の中で、適切に必要な診療を行うことが私たちの使命と日々取り組んでいます。そのことをご理解いただいて、救急センターを受診していただければ、病院スタッフとしてはたいへんありがたいことです。

時間帯によっては、藤枝市瀬戸新屋にあります「志太・榛原地域救急医療センター」など、他の医療機関をご案内させていただくこともあります。他の医療機関の受診を希望される場合は、お電話にてお問い合わせください。

3. 救命救急センターの指定に向けて・・・

当院が「救急センター」を建設するに至った目的の一つに「志太榛原地域全体の救急医療をバックアップできる体制づくり」があります。救急センターの 2 階には、20 床の入院ベッドが備えられており、入院が必要と診断された患者さんに即座に対応できるようにしています。夜間に救急センターを受診し、その後入院される患者さんは現在 1 日 10 人前後おり、以前より増えてきています。また救急外来で診察した医師が急変に即座に対応できることもメリットです。

当院の夜間・時間外の救急体制は、内科系医師 1 人・外科系医師 1 人・小児科医師 1 人・研修医 3 人、外来対応する看護師 3 人、入院対応する看護師 3 人、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師などで組織されています。医師や技師は日中の勤務を終えた後の当直体制であり、救急専門ではないことをご承知おきください。

また当直が明けても次の日には、通常の診療が待っているという現実の中で、志太榛原地域の救急を守る気概で取り組んでいます。

受付から診察までの一連の流れ



選別	状態	症状	ケアの継続
蘇生	直ちに診療、治療が必要	心停止 重症外傷 高度の意識障害 重篤な呼吸障害 など	随時継続
緊急 <small>救急車は赤対応</small>	10分以内に、治療が必要	心源性胸痛 激しい頭痛、腹痛 など	15分ごとの再評価
準緊急	30分以内に、治療が必要	症状のない高血圧 変形のある四肢外傷 中等度の頭痛、腹痛 など	30分ごとの再評価
低緊急	1時間以内に、治療が必要	尿路感染症 縫合を要する創傷 (止血あり) など	1時間ごとの再評価
非緊急	2時間以内に、診察	縫合を要さない外傷 処方、検査希望 など	2時間ごとの再評価

■ ■ ■ は、診察が開始するまで所定の時間で観察を繰り返す。



当院の救急センター常勤医の紹介



藤枝市立総合病院 救急科 増田 崇光

平成 27 年 4 月より藤枝市立総合病院に救急センターが開設されました。救急科常勤医の増田崇光と申します。ここでは救急医療の紹介をさせて頂ければと思います。「救急医療」とは何か？「瀕死の患者を救う」ことを始め、「救急医療」には様々なイメージがあります。それは救急医療の一側面で、救急医療は都市、地方に応じて、その土地に必要な形にその姿を変えます。

藤枝市立総合病院の救急医療は「重症患者の命を救う」こと他に「患者さんに適切な医療を提供する窓口」という役割も兼ねていると思います。専門細分化された医療の中で患者さんに身近な存在であると思います。誰もが病気になり怪我をすることがあります。そんな時に皆様に適切な医療を紹介し、またどんな病気や怪我でも受け入れる救急医療を目指し、日々努力、邁進していきたくと思います。



藤枝市立総合病院 救急科 麻喜 幹博

救急センター開設にあたり、平成 27 年 4 月より増田医師とともに赴任してまいりました。私たちは以前当院の初期研修医として 2 年間の研修を得た後、私は東京で主に循環器内科を中心に研修してまいりました。

心臓疾患は高齢化とともに年々増えています。また、食の欧米化などにより、若年化も進んでいると言われております。心疾患は心臓発作を始め生命を脅かす緊急事態となることが多く迅速な対応が必要なため、救急現場で循環器疾患が占める割合は大きくなります。

当院は心疾患を専門的に扱う循環器内科も充実しており、24 時間体制で心臓疾患に対応できる施設です。救急現場で適切な対応・処置を行い速やかに専門的治療が行えるような体制を整備しているとともに更なる向上に向けて日々努力を行っていくと思います。

